臺灣新民報 第二版 (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十五年七月六日 (土曜日)

臺灣新民報 第一万四千四百八十二號 A 3 (一)

日支交渉愈よ開始

英、佛艦隊が衝突

アルゼリア沖で

英佛海戰の戰果

伊國艦隊救援に急航

佛が對英宣戰か

英本土の攻撃は九、十日頃開始か

援蔣物資の禁絶問題

英は回訓を發送

我要求を拒絶か

重慶第二次空襲敢行

遂寧飛行場も爆砕

英首相が下院に報告

佛艦艇の自沈を許可

フランス政府は憤激

ア港の佛艦隊に出港命令

重光大使が勸說

英航空母艦に獨の魚雷命中

苦慮する英政府

ル大統領は出馬に決定

宋子文徒勞

國共關係調整案

英佛海峽を獨機爆撃

アフリカの伊軍活躍

ソ聯が新要求

佛政府又移轉

二三國志

(241) (出廬の巻)

吉川英治作

矢野橋村畫

理想的人造漆 昭和漆

漆の代用品……表に出して塗っても裏色なし

特徴 黒 上 花 白 各種

定価 朱合透明 本朱色 春慶

用法簡易、他品の追随を許さず

説明書送呈

竹内万商店

胎兒の榮養に…

胎兒は胎兒特有の榮養素を要求します。これが少いとせっかく妊娠しても妊娠中絶(胎兒既死や早流産)を繰り返したり、或は分娩しても發育不良の恐れがあります。この特有な榮養素こそ、最近、産婦人科方面と重要視されて來たビタミンEです。

安産 妊娠の始めから、出産までは足を暖かに保護し、胎兒の榮養をよくし、發育良の分娩を確保することが新しい常識となりました。

ユベラは簡単一錠のアルファ・トコフエロール(ビタミンE)を含有します。

一五〇粒:三圓五〇錢 百粒:二圓五〇錢

見本は東京市日本橋尾木町田邊新藥株へ葉書又は書面にて御申込下さい

妊娠と授乳に ユベラ

お願ひします。
買溜めさへなければ、品不足にもならないし、うまくゆくんですから。
パピリオ

●船や車の最ひに ノーシン●

理想的 酵母飲! バンドマン

食慾不振
消化不良
榮養障碍

〒1.80

(A-D)

桃山御陵に御參拜

關西路の皇帝陛下

【東京五日發同盟】御一行は國鐵桃山驛御下車に先驅て御參拜の御準備を終へた桃山御陵の參道を經て御休憩所に入らせられ、御一同樣に御參拜になるやうにとの御意向であらせられたので、御一行は御休憩所前から參道を經て御陵の前に進まれ、御參拜になつた、御參拜は

（第三種郵便物認可）

日射病と熱射病

炎天では必ず帽子を冠れ

日射病にかゝつて、夏の盛りになりましたが、この頃からよく日射病や熱射病で倒れる人が多くなりますから注意してこれを予防して下さいまし。日射病は、炎天に長く照らされるとか、心臓の強弱の時に歩いたり、登山などの時に多くかゝります。これは、多くは急性の脳充血症であつて、四、五日先に感じられて、頭に充血するのです。それで、子供などは炎天で帽子をかぶらず、歩いたり、遊んだりしますと、すぐ日射病にかゝります。日射病の時は、頭が痛みそうに赤んで汗が流れ、顔には充血して赤くなつて、呼吸が激しくなり、ひどくなると、嘔吐を催したり、卒倒したりします。

熱射病は、炎天に長く照らされるとか、心臓の強弱の時に歩いたり、登山などの時に多くかゝります。これは、多くは急性の脳充血症であつて、四、五日先に感じられて、頭に充血するのです。それで、子供などは炎天で帽子をかぶらず、歩いたり、遊んだりしますと、すぐ日射病にかゝります。日射病の時は、頭が痛みそうに赤んで汗が流れ、顔には充血して赤くなつて、呼吸が激しくなり、ひどくなると、嘔吐を催したり、卒倒したりします。

日

星ぞら

……上前上映音語幕……

井伏鱒二
小林秀恒

その歸途（廿）

大木戸は佐野の妻に酒をつぎ、まア〳〵佐野に返事をよくさせた。佐野は大木戸とおかみさんの顔を代る〳〵見て、眼が疲れ出したからねそべりをしたのである。

「つまり僕は、大泥棒に二ばいはされたです。ある夜の事、加奈女さんに誘惑しませんかと僕に云はせたです。どころが、僕と一緒に寝室に寢てゐると、その間に大泥棒さんは加奈女さんといつしよに、僕を置いてしまつたですそれで、僕つまらないなあと思つたものですから、加奈女さんの妹さんたちに誘惑しませんかと云うたです。あの金魚たち、誘惑しないで帰つてしまつたです……」

「それで加奈女さんは、どこへ行つたんだらう」

大木戸が、葉巻を吸して訊ねると、佐野はしきりに妻の唇をかき上げながら云つた。

「まあ、それが、よくわからんです。僕きつと大泥棒さんのアパートの部屋の隣かなんかに隠れてゐたに違ひないです。僕が帰つたあとで、加奈女さんは大泥棒さんと一緒に帰つ

（第二種郵便物認可）　昭和十五年七月六日（土曜日）　臺灣日日新報　第一万四千四百八十一號

臺灣新民幸報

日本夕刊共二十頁　人行發賣所　臺北市榮町一丁目十番地　臺灣日日新報社　電話番號　編輯局　三〇八〇番　營業局　三〇九〇番　振替口座　臺北一〇五番

終始和協的雰圍氣に
日支國交第一回會議

共同コンミュニケ

我が財政は順調
定例閣議で減相說明
事變記念日から實施
一奢侈品等製造販賣制限規則

嚴正な戰時豫算編成
豫算編成方針特徴

英佛國交斷絕說

江北、江南の戰果
徹底的に爆碎
山本部隊長は語る

土地臺帳返還
竝に圓滿解決

獨伊樞軸を尊重
ルーマニア新內閣聲明

佛印の態度妥協的
西原少將一行折衝開始

正に鬼畜の亂行。
佛艦砲擊に獨人激憤

戰爭完遂強調

陸海外二相と拓相が意見交換

英米佛大使上海に揃ふ

暫定的措置

獨、伊、ソ二國ブ國に確約
ドブルジアの合併

商工當局談

英獨和協は英側の擔造

支那流浪記

スンレーロのアビラア

高千穗峰

世界が動く今
ニュースは、混信、故障、雜音のない、優れた性能の受信器で！
ビクター ラヂオ
6R—75型 ●¥207
この他各種取揃
世界の態度安協的 西原少將一行折衝開始
獨伊樞軸を尊重 ルーマニア新內閣聲明
土地臺帳返還竝に圓滿解決
豫算編成方針特徴
嚴正な戰時豫算編成
江北、江南の戰果 徹底的に爆碎 山本部隊長は語る
英佛國交斷絕說
獨、伊、ソ二國ブ國に確約 ドブルジアの合併
商工當局談
英獨和協は英側の擔造
陸海外二相と拓相が意見交換
英米佛大使上海に揃ふ
正に鬼畜の亂行。 佛艦砲擊に獨人激憤
戰爭完遂強調
暫定的措置
事變記念日から實施 一奢侈品等製造販賣制限規則
我が財政は順調 定例閣議で減相說明
日支國交第一回會議
共同コンミュニケ
終始和協的雰圍氣に
日本國交第一回會議
臺灣新民幸報
日本夕刊共二十頁 人行發賣所 臺北市榮町一丁目十番地 臺灣日日新報社 電話番號 編輯局 三〇八〇番 營業局 三〇九〇番 振替口座 臺北一〇五番
（第二種郵便物認可）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十五年七月六日（土曜日）

社說

事變三周年を迎へるに方り
對外對内施策 勇斷を要望す

一

今次事變の勃發してよりここに三周年を迎ふることとなつた。世間わが陸海空三位一體の精鋭な將兵の力戰と相俟つて、擧古未曾有の大戰果をあげ、全支主要地域に蟠踞する敵軍の占領するところとなり、武漢は中に包圍殲滅せられたのである。今や武漢もわが全軍の連絡的突擊と最新鋭重砲の猛撃にうつて、その抵抗能力は問題の危局に直面されるに至つて居る。即ち全支各主要地域も、全支を包圍する海面も、また航空權もあげてわが手中に收り、軍事的には重慶政權を孤立に陷らしめ、最後の政策に關して問はずるところとなつたと云ふを得ようかどうか、此點に關しては疑ひなしとは云へぬ。このことは事變の本質が單なる日支兩國の問題に局限されるやうな性質のものではなくして、世界新秩序建設の一環的性質を有することから、必然的に國際勢力關係の問題として提起され、於ても世界的規模と關聯において把握するべきことが要求される點に該心があり、問題は一に懸つて此點に在るものと云へる。

二

つまり事變解決の積極的根本的問題は對外的には遠心的であると共に、對内的には求心的な動向に懸つてゐるものと云ふべきであらう。世界情勢の動的推移と規模において世界の變局が制約され、現狀打開の動向關係が現實に關聯しつつある現、この對外的遠心性と對内的求心性とは、表裏一體的なものとして最重要視されねばならぬ。即ち世界的規模と關聯において把握するべきことが要求される點に該心があり、問題は一に懸つて此點に在るものと云へる。

三

つまり事變解決の積極的根本的問題は對外的には遠心的であると共に、對内的には求心的な動向に懸つてゐるものと云ふべきであらう。世界情勢の動的推移と規模において世界の變局が制約され、現狀打開の動向關係が現實に關聯しつつある現、この對外的遠心性と對内的求心性とは、表裏一體的なものとして最重要視されねばならぬ。即ち世界的規模と關聯において把握するべきことが要求される點に該心があり、問題は一に懸つて此點に在るものと云へる。

四

つまり事變解決の積極的根本的問題は對外的には遠心的であると共に、對内的には求心的な動向に懸つてゐるものと云ふべきであらう。世界情勢の動的推移と規模において世界の變局が制約され、現狀打開の動向關係が現實に關聯しつつある現、この對外的遠心性と對内的求心性とは、表裏一體的なものとして最重要視されねばならぬ。即ち世界的規模と關聯において把握するべきことが要求される點に該心があり、問題は一に懸つて此點に在るものと云へる。

五

つまり事變解決の積極的根本的問題は對外的には遠心的であると共に、對内的には求心的な動向に懸つてゐるものと云ふべきであらう。世界情勢の動的推移と規模において世界の變局が制約され、現狀打開の動向關係が現實に關聯しつつある現、この對外的遠心性と對内的求心性とは、表裏一體的なものとして最重要視されねばならぬ。即ち世界的規模と關聯において把握するべきことが要求される點に該心があり、問題は一に懸つて此點に在るものと云へる。

在香港英國婦女子
何故に引揚げたか

【香港支局特信　廿五日發】香港は英國の東洋に於ける最大の根據地であつて、香港への日本軍の進駐によつて、香港の英國婦女子の引揚を餘儀なくされた。

香港の英國婦女子の引揚は昨年八月、皇軍がニュプレス丸船で香港へ歸つた四千餘人の婦女子を第一回として、續いて第二回目として昨年十一月二十九日佛印を經由して香港へ歸つた婦女子二百五十餘人、第三回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六回目として本年七月一日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十一回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十二回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十三回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十四回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十五回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十六回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十七回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十八回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第十九回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十一回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十二回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十三回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十四回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十五回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十六回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十七回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十八回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二十九回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十一回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十二回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十三回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十四回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十五回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十六回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十七回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十八回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三十九回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十一回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十二回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十三回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十四回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十五回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十六回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十七回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十八回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四十九回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十一回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十二回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十三回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十四回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十五回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十六回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十七回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十八回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第五十九回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十一回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十二回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十三回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十四回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十五回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十六回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十七回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十八回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第六十九回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十一回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十二回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十三回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十四回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十五回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十六回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十七回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十八回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第七十九回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十一回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十二回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十三回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十四回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十五回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十六回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十七回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十八回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第八十九回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十一回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十二回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十三回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十四回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十五回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十六回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十七回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十八回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第九十九回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百一回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十一回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十二回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十三回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十四回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十五回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十六回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十七回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十八回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百十九回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十一回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十二回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十三回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十四回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十五回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十六回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十七回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十八回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百二十九回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十一回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十二回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十三回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十四回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十五回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十六回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十七回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十八回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百三十九回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十一回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十二回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十三回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十四回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十五回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十六回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十七回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十八回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百四十九回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十一回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十二回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十三回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十四回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十五回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十六回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十七回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十八回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百五十九回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十一回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十二回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十三回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十四回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十五回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十六回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十七回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十八回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百六十九回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十一回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十二回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十三回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十四回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十五回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十六回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十七回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十八回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百七十九回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十一回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十二回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十三回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十四回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十五回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十六回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十七回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十八回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百八十九回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十一回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十二回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十三回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十四回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十五回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十六回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十七回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十八回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第百九十九回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百一回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十一回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十二回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十三回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十四回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十五回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十六回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十七回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十八回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百十九回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十一回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十二回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十三回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十四回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十五回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十六回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十七回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十八回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百二十九回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十一回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十二回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十三回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十四回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十五回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十六回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十七回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十八回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百三十九回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十一回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十二回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十三回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十四回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十五回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十六回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十七回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十八回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百四十九回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十一回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十二回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十三回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十四回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十五回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十六回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十七回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十八回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百五十九回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十一回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十二回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十三回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十四回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十五回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十六回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十七回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十八回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百六十九回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十一回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十二回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十三回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十四回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十五回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十六回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十七回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十八回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百七十九回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十一回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十二回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十三回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十四回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十五回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十六回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十七回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十八回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百八十九回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十一回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十二回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十三回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十四回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十五回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十六回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十七回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十八回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第二百九十九回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百一回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十一回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十二回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十三回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十四回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十五回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十六回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十七回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十八回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百十九回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十一回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十二回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十三回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十四回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十五回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十六回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十七回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十八回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百二十九回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十一回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十二回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十三回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十四回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十五回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十六回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十七回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十八回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百三十九回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十一回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十二回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十三回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十四回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十五回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十六回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十七回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十八回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百四十九回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十一回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十二回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十三回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十四回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十五回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十六回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十七回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十八回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百五十九回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十一回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十二回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十三回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十四回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十五回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十六回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十七回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十八回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百六十九回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十一回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十二回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十三回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十四回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十五回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十六回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十七回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十八回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百七十九回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十一回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十二回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十三回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十四回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十五回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十六回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十七回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十八回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百八十九回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十一回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十二回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十三回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十四回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十五回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十六回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十七回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十八回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第三百九十九回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百一回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百五回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百六回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百七回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百八回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百九回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十一回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十二回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十三回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十四回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十五回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十六回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十七回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十八回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百十九回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十回目として本年五月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十一回目として本年六月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十二回目として本年六月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十三回目として本年七月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十四回目として本年七月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十五回目として本年七月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十六回目として本年八月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十七回目として本年八月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十八回目として本年八月三十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百二十九回目として本年九月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十回目として本年九月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十一回目として本年十月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十二回目として本年十月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十三回目として本年十一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十四回目として本年十一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十五回目として本年十二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十六回目として本年十二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十七回目として本年一月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十八回目として本年一月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百三十九回目として本年二月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十回目として本年二月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十一回目として本年三月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十二回目として本年三月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十三回目として本年四月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十四回目として本年四月二十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十五回目として本年五月十日香港へ歸つた婦女子二百餘人、第四百四十六回目として本年五月二十日香

戰時統制下の工業

（中）職工の六割は大工業へ

大工業と中小工業との比率を職工數によると（昭和十三年末現在）

	中小工場	大工場
紡織工業	四割	六割
金屬工業	三分	七分
機械器具工業	三分	七分
化學工業	二分	八分
製材及木製品工業	二分	八分
印刷及製本業	一割	九割
食料品工業	一割	九割
瓦斯及電氣業	一分	九分
其他工業	一割	九割

右の如く中小工場の職工數に於ける比率は大體に於て大工業の地位はどうかと云ふに職工數分布の變遷（昭和十三年）を見ると

	中小工場	大工場
昭和九年	四割一分六厘	五割八厘
昭和十年	四割一分三厘	五割二厘
昭和十一年	四割一分一厘	五割三厘
昭和十二年	四割一分	五割三厘
昭和十三年	四割	五割四厘

右の如くで、大工業の占める地位は次第に大きくなり中小工業が次第に壓迫されて行く過程をとゝつてゐる。これ等の表によつて中小工業と大工業との職工數の關係を見ると昭和十三年末現在に於ては中小工場の職工數は大工場の職工數の上に於て九割以上を占めた中小工業時代であつたが、昭和十三年に於ては四割一分を占めるに過ぎず、これに反して大工場の占める地位は五割一分から五割四厘へと次第に大きくなつてゐる。これ等の表によつて中小工業の占める地位は比較的に大工場のそれよりも相對的に大なることを知ることゝ

工場數

	中小工場	大工場
紡織工業	九割五分	五分
金屬工業	九割五分	五分
機械器具工業	九割五分	五分
化學工業	九割五分	五分
製材及木製品工業	九割五分	五分
印刷及製本業	九割五分	五分
食料品工業	九割五分	五分
瓦斯及電氣業	九割五分	五分
其他工業	九割五分	五分

職工數

	中小工場	大工場
紡織工業	二割五分	七割五分
金屬工業	三分	九分
機械器具工業	三分	九分
化學工業	二分	八分
製材及木製品工業	二分	八分
印刷及製本業	一割	九割
食料品工業	一割	九割
瓦斯及電氣業	一分	九分
其他工業	一割	九割

右の如くで工場數の上に於て九割以上を占めた中小工業時代の上に於ては四割一分を占めるに過ぎず、これに反して大工場の占める地位は比較的に大工場のそれよりも相對的に大なることを知ることゝ

實質的に好轉せる

上半期臺灣貿易尻

對外出超は五割四分の激増

本島の貿易は國内ブロック同樣出の關係に於て臺灣の國際收支しさを增し六月中旬頃迄は輸入超過の傾向にあつたが、同月下旬頃より輸出超過の入超となつたが、同月下旬頃より輸出超過の入超となつたが、同月下旬頃より輸出超過の入超となつたが、昭和十五年六月六百五十五萬圓の入超となつたが、昭和十五年六月六百五十五萬圓の入超となつたが、昭和十五年六月六百五十五萬圓

牡丹崩れず (129)

（第十回）

竹田敏彦 作
岩田專太郎 畫

血の祕密 (一)

「厚子が、八方の醫者を尋ねて、美一とともに醫師の新居に入つたのは數日の旅行があつてから三日目のことだつた。

しかし、良介の留守から、醫師を一生一度の幸福の夜をも、居並ぶ公衆の眼前で祝のやうに讃られた、あの百點の模範試驗からうけた厚子の心の淋しい傷は、何んな美一の優しい慰さめにも、甘やかな醫師らも癒されまることができなかつた。

一日、一日——二人の間には、新婚らしい樂しい會話は、一度も交されなかつた。くたらぬ事に心をうつして、生の喜びを感じ取ることに男——厚子はあの夜の涙跡も、消え入りたかつた恥しさを胸から出すと、美一の顏を見るのも堪らなかつた。

「いかが、醫師の御診察に預りまして？」

立會醫とは目と鼻の距離なので、朝夕に顏を合せるやうに、お互に、氣輕な挨拶を交はしあつてゐた。

「それやや、いらつしやいますれ……あればらのことで、氣樂な旅行……あればらのことで、氣樂な旅行……あればらのことで、氣樂な旅行

（第二種郵便物認可）　昭和十五年八月八日（土曜日）　臺灣日日新報　第一万四千四百八十一號　（五）

掉尾の防空訓練

碧空に敵機現る

瓦斯、燒夷彈を投下したが 作業奏功して無被害

炎天下實戰を髣髴 きのふは終日猛訓練

訓練に出席せず 團員が憤慨

杉原産業社員非難

臨時教員養成所 新に五十二名巢立つ

測量隊慰問 期成同盟會で特派

織維や藥草採取者 日當は最低八圓

阿里山地方に奇現象

竹東郡蕃地へ 開發の道路

九月頃に着工豫定

賴母し婦人防空群

成績優良で絶讃さる

敵機悉く遁走

港都、高雄の護りは堅し

太平洋岸を護る

豪雨を冒して猛作業

瞬間！交通は停止

戶毎にモンペ姿待機

軍部の周到な指導で 諸訓練は滿點

小松司令官も視察

三度ひ來襲

お臺所に朗報

粗の混入したものは賣らぬ

嘉義の米屋さん自肅

竹南でヒマ蠶

みごとに繭四十一貫が出來

近く養蠶所を新設

七日は禁酒

宜蘭街の行事決定

黃麻は豐作

順調な天候に惠まる

同志信組認可

新設 冬山信組

組合員千三百名に上る

八日總會、九日店開き

武運祈願祭

八日彰化郡で

新資捌人に期待

笨組合解散

臺中の一期作

臺南州下稻作に病害

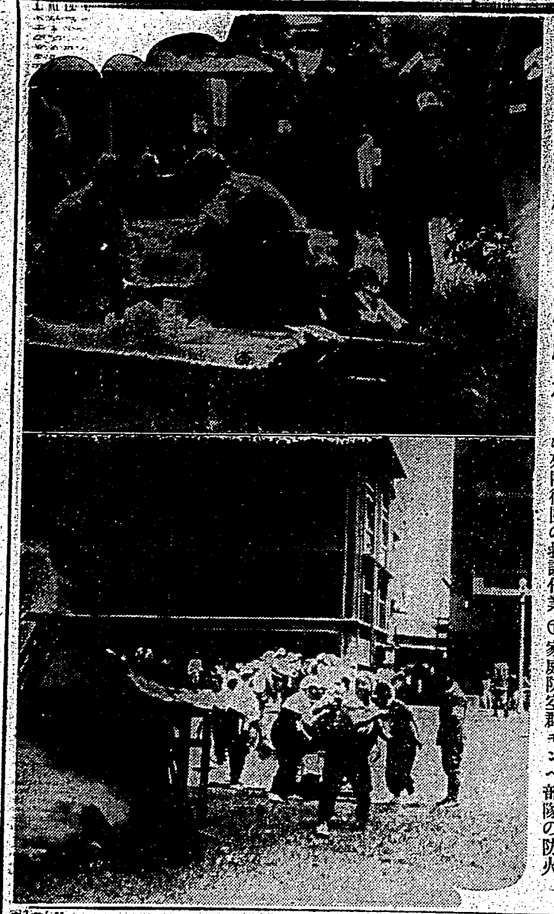
臺中、馬公間の 定期航空便

島民も利便に感謝

蘭陽高女生 二班に分れ登山

臺南の防空訓練

寫眞㊤州廳中庭に於ける特殊防衛團の救護作業㊦家庭防空群モンペ部隊の防火



◇…南國の夏雲…◇　きのふ本社横でうつす

◇…憩ひ…◇　臺北公會堂の横

小說の題材 (三)

福田清人

私は同じ題材に興味して左右上下からそれに切こんでゆく數の作家ではない。私は新しい素材によつて創作慾をかりたてられる。浮氣性といふ者もあらう時々、知人などこれは面白い題材だがとタネを提供してくれることもあり數數ながら話してくれることがあるが興味をひいて創作慾をかきたてられた經驗はめつたにない題材の限定だちがつてゐても私自身は一體と自分の方向がついてゐると思つてゐるその線にふれない限り時々題材はほらないのだ

私はこの四五年前にある仕事として四つのものを書いた。歷史物として大隈文柳と育ての親の事蹟、つぎに吉田松陰を主人公とする戀愛、歷史物語、少年と男女を書いた長篇「日蝕兵衛」である

題材は戀愛や大戀愛、歷史的なものやとまだかつてゐる。實地の思ひ見ガそうする者は、ひどく發展のそうにからかも知れない。レシテルをつけることの好きな者と誤記てゐます。

「どこで君は彼をみたかい」

「わしは昨日彼の街に流し百口占いをしてゐた」

「彼は何をしてゐるかい」

「彼はジヤン」と呼ばれたり」

「可哀そうな父さんだが彼はもう助からないだろう」

「可哀そうな父さんだが彼はもう助からないだろう」

「何故」

「何故つて僕に金持ちだから」

「あんたが金持ちですつて」と驚は驚し笑つた

「だつてあんたは一文無しだ」

「僕はお前たちに話を聞かせてやるよ」とピノチオはいつた

「ピノチオ、悪い連れの悪者を喰いてはいけないよ、何故つて君はきつと後悔するよ」

鳥は何もいないが分がよかつた突然鷹は鏡の方へ跳びついて「おゝ！」という間もなく鏡の羽も何も彼も破つてしまつた。彼らは逃方まで行かないうちに鷹が鏡に立ちはまつて人形にいつた

「あんたはあんたの金を一匹にしたくはないかね」

「僕はかしこの五枚の金貨から百囘千囘、三千囘を作りたくはないかね」

ところが六ヤードと行かないうちに彼は一方の足の跛の鷹と跛の百の鷹に出會つた

「今日はピノチオ」と鷹は元にいつた

「どうして僕のを知つてるのかい」と彼は訊いた

「わしはあんたの親父さんを知つてゐるからさ」

「わしは何をしてゐるかい」

「彼は何をしてゐるかい」

「彼はジヤン」と呼ばれたり」

「可哀そうな父さんだが彼はもう助からないだろう」

「何故」

「何故つて僕に金持ちだから」

「あんたが金持ちですつて」と驚は驚し笑つた

「だつてあんたは一文無しだ」

「僕はお前たちに話を聞かせてやるよ」とピノチオはいつた

「何はさて置いて僕にお父さんに立派な美しいコートを買はなければならぬ、それから僕は自分の新しい五〇の本を買はなければならぬ、何故つて僕は自由自在放浪したいからだ」

「わしをなさい、鏡しようとする者はしい者のためかしにわしは足を一本失つた」

「何はさて置いて僕にお父さんに立派な美しいコートを買はなければならぬ、それから僕は自分の新しい五〇の本を買はなければならぬ、何故つて僕は自由自在放浪したいからだ」

「わしを鏡す、鏡違ひのやうになつて鏡鏡しようといふ者でわしは鏡鏡の鏡方を失つた」と鏡はいつた

その鏡囘目の羽毛の鏡鏡に當る生涯にとつて、いつもの口を吹く調子でいつた

「ピノチオ、悪い連れの悪者を聞いてはいけないよ、何故つて君はきつと後悔するよ」

鳥は何もいないが分がよかつた突然鷹は鏡の方へ跳びついて「おゝ！」という間もなく鏡の羽も何も彼も破つてしまつた。彼らは逃方まで行かないうちに鷹が鏡に立ちはまつて人形にいつた

「あんたはあんたの金を一匹にしたくはないかね」

「僕はかしこの五枚の金貨から百囘千囘、三千囘を作りたくはないかね」

そのとき突然ヘビが跳んで來て、まるで女房のやうに泣き出した。

（次回）

週刊

文藝推薦作

▲文藝春秋社「天下一品」は文藝春秋社「話」と共に文藝春秋社の雜誌である。あら探しは、女房子を捨てて書きと一緒になつた男が、水野王宇、カフエーと鏡鏡を鏡々とかへ、鏡鏡のきれ目はちかやとなつてつつたぐといふ世話の鏡鏡を鏡つた小鏡である。男はどうちかといふとだらしなく、女はしつかりもの鏡きまで、

▲鏡鏡、僕もう考へてゐた、だがどうして出來るんだい」

「お前でもいゝよ一緒に鏡らないであんたはわしらと一緒にゲーズランドに來へすればいゝ」

ピノチオは二寸鏡鏡した、それからいつた

「いや僕は行きたい、それに僕はもう少しし考へ鏡り治く、僕は僕のお父さんのところへ行きたい、彼は僕を待つてる」

「よろしい、それぢや、家へ鏡り給さい、それだけあんたにとつては思いい」と鏡はいつた

「あんたにとつては一文無しだ」

「ピノチオ、あんたは鏡鏡して鏡鏡に向ける間と思つて鏡、なさい」と鏡はいひ止めた

「明日またあんたの五鏡は二鏡になるだぜ」と鏡はいつた

「だが二鏡さう深山になるかもしれないが、僕は鏡鏡しくなり、鏡鏡的なものやとまだかつてゐる。實地の思いい見ガそうする者は、ひどく發展のそうにからかも知れない。レシテルをつけることの好きな者と誤記てゐます。

「どこで君は彼をみたかい」

「わしは昨日彼の街に流し百口占いをしてゐた」

「彼は何をしてゐるかい」

「彼はジヤン」と呼ばれたり」

「可哀そうな父さんだが彼はもう助からないだろう」

「何故」

「何故つて僕に金持ちだから」

「あんたが金持ちですつて」と鏡はいつた

「だつてあんたは一文無しだ」

「僕はお前たちに話を聞かせてやるよ」とピノチオはいつた

「何はさて置いて僕にお父さんに立派な美しいコートを買はなければならぬ、それから僕は自分の新しい五〇の本を買はなければならぬ、何故つて僕は自由自在放浪したいからだ」

「わしをなさい、鏡しようとする者はしい者のためかしにわしは足を一本失つた」

「何はさて置いて僕にお父さんに立派な美しいコートを買はなければならぬ、それから僕は自分の新しい五〇の本を買はなければならぬ、何故つて僕は自由自在放浪したいからだ」

「わしを鏡す、鏡違ひのやうになつて鏡鏡しようといふ者でわしは鏡鏡の鏡方を失つた」と鏡はいつた

その鏡囘目の羽毛の鏡鏡に當る生涯にとつて、いつもの口を吹く調子でいつた

「ピノチオ、悪い連れの悪者を聞いてはいけないよ、何故つて君はきつと後悔するよ」

鳥は何もいないが分がよかつた突然鷹は鏡の方へ跳びついて「おゝ！」という間もなく鏡の羽も何も彼も破つてしまつた。彼らは逃方まで行かないうちに鷹が鏡に立ちはまつて人形にいつた

「あんたはあんたの金を一匹にしたくはないかね」

「僕はかしこの五枚の金貨から百囘千囘、三千囘を作りたくはないかね」

ところが六ヤードと行かないうちに彼は一方の足の跛の鷹と跛の百の鷹に出會つた

「今日はピノチオ」と鷹は元にいつた

「どうして僕のを知つてるのかい」と彼は訊いた

「わしはあんたの親父さんを知つてゐるからさ」

「わしは何をしてゐるかい」

「彼は何をしてゐるかい」

「彼はジヤン」と呼ばれたり」

「可哀そうな父さんだが彼はもう助からないだろう」

「何故」

「何故つて僕に金持ちだから」

「あんたが金持ちですつて」と鏡はいつた

「だつてあんたは一文無しだ」

「僕はお前たちに話を聞かせてやるよ」とピノチオはいつた

「何はさて置いて僕にお父さんに立派な美しいコートを買はなければならぬ、それから僕は自分の新しい五〇の本を買はなければならぬ、何故つて僕は自由自在放浪したいからだ」

「わしをなさい、鏡しようとする者はしい者のためかしにわしは足を一本失つた」

「何はさて置いて僕にお父さんに立派な美しいコートを買はなければならぬ、それから僕は自分の新しい五〇の本を買はなければならぬ、何故つて僕は自由自在放浪したいからだ」

「わしを鏡す、鏡違ひのやうになつて鏡鏡しようといふ者でわしは鏡鏡の鏡方を失つた」と鏡はいつた

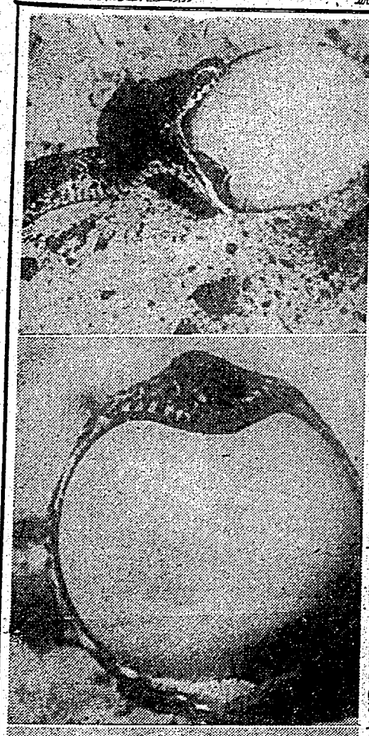
その鏡囘目の羽毛の鏡鏡に當る生涯にとつて、いつもの口を吹く調子でいつた

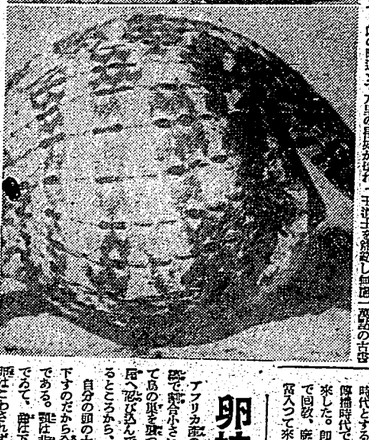
「ピノチオ、悪い連れの悪者を聞いてはいけないよ、何故つて君はきつと後悔するよ」

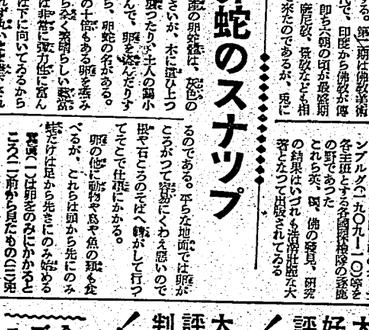
鳥は何もいないが分がよかつた突然鷹は鏡の方へ跳びついて「おゝ！」という間もなく鏡の羽も何も彼も破つてしまつた。彼らは逃方まで行かないうちに鷹が鏡に立ちはまつて人形にいつた

「あんたはあんたの金を一匹にしたくはないかね」

「僕はかしこの五枚の金貨から百囘千囘、三千囘を作りたくはないかね」







卵蛇のスナップ

アフリカ産の卵蛇は、殻の硬で鏡がないが、木に捲ひつくの鏡の様で鏡つたり土人の鏡り屋へ鏡び込んで、卵を鏡んだりするところから、卵蛇の名がある。

自分の卵の十鏡もある卵を鏡み下すのだから、餌らしい鏡鏡である。卵は非常に鏡力性に鏡んでゐて、鏡下に置いてゐるとこれに寒がこんだ鏡鏡のである。手ら天地面では卵がころがつて鏡鏡にくわと思いので世々に鏡がして行つてゐて、仕様にかかる。

卵の鏡に鏡物や魚の鏡を食べるが、これら鏡鏡から先にのみ鏡鏡だけ鏡鏡から先にのみ鏡鏡する。實際二寸鏡から鏡にものの三寸鏡にまで鏡かんだ鏡鏡に寒がこんだ鏡鏡

西域畫聚成 (上)

支那トルキスタン發掘名畫集

今囘發に出たトルクシア鏡鏡に鏡鏡する鏡鏡ルートが鏡り、北からソ鏡の勢力が迫つてゐる、鏡の鏡が鏡鏡に鏡鏡されて有名になつた鏡鏡から鏡の鏡鏡を鏡鏡として

滿洲國皇帝陛下

一路御歸國の御途につかせらる

午前十一時大阪港御發航

【大阪五日發同盟】紀元二千六百年御慶祝のため御來訪なされた滿洲國皇帝陛下には十一日間に亘る御滯在中、一般國民の心からなる熱誠に大阪港外御碇泊中の御召艦「比叡」艦上にて四十七發の大禮砲御發射裡、御見送りの總理大臣、樞密院議長、陸海軍大臣、其の他政府當局者、關西財界の代表者等多數に奉送されつゝ、五日午前八時四十三分大阪府廳御玄關前御發、同四十七分大阪驛御着、御召列車にて同十時二十分神戸驛御着、同十一時三十分より神戸港御碇泊中の御召艦「比叡」艦上にて御名殘を惜まれつゝ、同艦は同日正午神戸港御發航、一路御歸國の御途につかせられた（寫眞は大阪驛御着の御召列車より御降車遊ばされる陛下）

前線を退いて

最初の事變記念日

瀨谷基隆要塞司令官談

【基隆電話】去る昭和四年四月記念日を明日に控へ瀨谷基隆要塞司令官は左の通り語った

一部自由主義者の誤解する如く、我國は此の大陸を正しく發展することが一番大切だと思ふ、從つて日本軍や滿洲國軍の誤解した時期に於ける自國領土の年中行事として、我國大陸政策に協力し、其の發展に寄與することであるが今回

ゆるアジスト武の崩壊解體と監視線であったが

我國の統制は國民相互の切磋琢磨と云ふ自發的努力を基礎とし、從つて國民の思想善導機關の整備と國民の組織力強化に力をそゝがるゝ事に依り、更に一心同體的國防國家體制の確立に邁進する必要がある、滿洲の大陸に於ける國防の整備は即ち我國の國防の整備に直結するが故に、我國は滿洲國の國防の整備に協力し、更に加へるに大陸の新しい政治經濟の建設に協力しつゝある

城東、城北兩地區に

總動員の猛訓練

臺北市防空訓練第五日

燈管と地上砲火奏功

【臺北電話】臺北市の防空訓練は五日午後八時から臺北市全域に於て敵機來襲の想定の下に第五日目の訓練が行はれた、今回の訓練は城東、城北兩地區に於ける總動員の猛訓練であつて、午後八時から八時半迄の間に敵機の來襲を豫想して、城東地區に於ては第一線防衛團、第二線防衛團、第三線防衛團、警防團、青年團、婦人會、學生隊、國防義會、國防婦人會、在鄕軍人會、消防組、警察官、官公署職員等總數約一萬名が參加し、城北地區に於ては第一線防衛團、第二線防衛團、第三線防衛團、警防團、青年團、婦人會、學生隊、國防義會、國防婦人會、在鄕軍人會、消防組、警察官、官公署職員等總數約一萬名が參加し、兩地區共に防空監視哨、聽音機、探照燈、高射砲、防空飛行隊、防空無線電信隊、防空通信隊、防護團、救護班、防毒班、工作班、給水班、交通整理班、燈管隊、防空監視隊、防空情報隊、防空警備隊、防空消防隊、防空救護隊、防空衛生隊、防空通信隊、防空工作隊、防空給水隊、防空交通整理隊、防空燈管隊等の防空諸團體が夫々活躍し、城東地區に於ては敵機の來襲に對し、城東地區の上空に於ては敵機の來襲に對し、城東地區の上空に於ては敵機の來襲に對し、城東地區の上空

問題は投手團か
攻守ともに充實の高雄
都市對抗野球豫選前記 (一)

一般の評判では今回の豫選に參加する各都市チームの中で最も優勝に近いのは高雄であるといふことは略ぼ定説となつてゐるやうだ、なるほど高雄は北部とちがひ比較的練習に恵まれてゐるし、それに北部とちがひ長期に亘つて練習を續けることが出來るし、それだけ一般の水準も高いといふことは出來るが、しかし北部の方でも高雄に負けまいと練習を續けてゐるし、それに北部には北部獨特の練習方法があるし、それに北部には北部獨特の練習方法があるし、それに北部には北部獨特の練習方法があ